

神奈川県本部

〒231-0025 横浜市中区松影町2-7-12飯田ビル
TEL: 045-663-4061 FAX: 045-663-4062
メール: nenkinkanagawa@nifty.com

6月29日現勢 組合員 8,680名
機関紙 5,303部
年金改善署名 42,955筆 07.7署名 10,748筆



神奈川県版 第235号 2008年7月15日

全日本年金者組合中央本部

〒170-0005 東京都豊島区南大塚1-60-20協立第3ビル
TEL. 03 (5978) 2751 FAX. 03 (5978) 2777
発行人 篠塚多助 月刊1部100円 送料70円
昭和57年6月30日第三種郵便物認可

春の仲間づくり月間

全国最高の拡大8680人に到達 月間目標達成18支部・新組合員414人

楽しいイベントやサークルなどの運動と消えた年金を取り戻す運動、後期高齢者医療制度の廃止の闘いなど、多彩な要求と仲間づくりを結合。特に協力者を広げる取り組みは情勢も反映し大きく前進しました。歴史に残る月間となったのではないのでしょうか。本当にご苦労さまでした。

歴史に残る奮闘に感謝

県本部執行委員長 田島 茂

今年の仲間づくり月間は400人を越す拡大で、約8700人と最高の峰を作りました。全支部の奮闘に心から感謝します。今月間は18支部が支部目標を達成、全国トップの成果を上げました。3月初めの合宿から4カ月間、相互に激励しながら月目標をクリアしての前進でした。県本部は推進委員会を隔週開催し、書記局ニュースを26号まで発行、経験と教訓を全体に普及する努力を行い、支部と一緒に考え苦勞を共にしました。

全支部と県本部一体で大きく前進

2008年の仲間づくり月間は、4月から6月までの3カ月間、県下39の全支部が県本部と一体となって全力を投入して取り組みました。その結果、半数近い18支部が月間目標を達成し、全体では414人の拡大を実現。これは過去最大で全国一位の拡大数となりました。神奈川県本部の組織人員も8680人と、結成以来最高の峰に到達しました。

6月29日現在、神奈川県本部の組織人員は、414人と全国最高の拡大数を確認すると共に、中央本部への最終報告日となる7月7日までに、20人を増やして8700人台に乗せる努力を確認しました。

元気が出た支部交流集会

年末に大きく現勢を減らした中で、その原因を深く分析し、増勢に転ずるために3月4日

5日、37支部104人が参加した「支部活動交流集会」が、全県の気持を一つにするのに大きな役割を果たしました。篠塚多助中央本部委員長の「年金者組合の果たしてきた役割」に参加者は感動と前進への確信を持ち、三つの特別報告から、具体的な教訓と取り組みをつかみました。そして県本部の集約的英知を結集した方針提起が、08年春の仲間づくり月間の指標として、しっかりと根付きました。

「基準目標」が一体感をつくる

今月間で県本部が一貫して追求した①基準目標（同規模の支部は同規模の目標を掲げて奮闘する）づくり

力する。②役員が先頭に立つと同時に、組合員に率直に参加を訴える協力者の組織化。③4月、5月各末日までの到達点を明確にする、節目目標の設定。これらが支部間の連



中央委員会で秋の方針を決定

年金者組合中央本部22回中央委員会が6月26日に開かれ、87,000人の組織を12月までに95,000人に。後期高齢者医療制度撤廃実現など方針を決定しました。

力を秋の飛躍へ

月間の当初、組織人員が8200人台まで落ち込み、このままでは「増やしてもまた減るのではないか」との思いを払拭して、史上最多の18支部目標達成と、全国一の414人の拡大を成し遂げたことは、困難な中で県本部と各支部の団結した力の成果です。神奈川県の不届の力を示したものと確信し、今後の活動に生かしていきたいでしょう。月間の総括は9月の県本部大会で行います。その間達成した支部、未達成の支部も掘り下げた自己分析と総括を深め、秋のさらなる飛躍を準備しましょう。

書記長 土田公佳

6月仲間づくり月間集計表

(6月29日現在)

◎ 春の仲間づくり月間目標達成支部

支部名	3/31現勢A	月間目標	6月29日到達点B	A-B増減	月間目標残り人数
鶴見	185	15	◎204	19	0
神奈川	262	30	276	14	16
港北	313	11	◎324	11	0
横浜北	157	15	168	11	4
横浜中	23	12	23	0	12
磯子	161	15	◎179	18	0
港南	285	20	292	7	13
横浜みなみ	246	20	◎268	22	0
金沢	126	10	◎138	12	0
保土ヶ谷	170	10	◎180	10	0
旭	294	20	◎317	23	0
瀬谷	113	15	◎132	19	0
横浜栄	85	12	90	5	7
横浜泉	168	15	173	5	10
戸塚	258	15	◎274	16	0
川崎みなみ	389	24	395	6	18
川崎幸	176	11	180	4	7
川崎中原	224	20	231	7	13
川崎高津	245	20	233	-12	32
川崎宮前	77	12	79	2	10
川崎多摩	424	40	445	21	19
川崎麻生	123	12	◎135	12	0
横須賀	303	45	309	6	39
三浦	53	6	◎59	6	0
逗子葉山	78	12	80	2	10
鎌倉	179	15	189	10	5
藤沢	114	21	127	13	8
茅ヶ崎寒川	211	20	◎233	22	0
大和綾瀬	74	8	◎82	8	0
相模原	515	38	537	22	16
座間	78	6	77	-1	7
海老名	85	10	86	1	9
津久井郡	89	12	90	1	11
厚木	500	30	491	-9	39
愛川	250	20	◎273	23	0
伊勢原	113	10	◎124	11	0
秦野	184	15	◎199	15	0
平塚	588	10	◎616	28	0
小田原地方	348	24	◎372	24	0
合計	8,266	676	8,680	414	305

秋には絶対廃止させる 怒り沸騰の後期高齢者医療制度

平成の「姥捨て山」と云われる後期高齢者医療制度は4月から実施されました。保険料が高い。年金から強制的に天引きされる。医療に差別を持ち込むなどの実態から全国的に廃止を求める声が高まり、4月の山口2区の補選に続いて6月の沖縄県議選でも自民・公明両党が大きく後退しました。

こうした状況を経て参議院では野党4党が提案した「廃止法案」が可決されました。衆議院では共産党が審議し成立させるよう強く求めましたが、他党が拒否し、与党は国民世

論を気にして当初は衆議院で廃案を狙っていましたが、審議しないまま継続審議となりました。

不服審査の請求

県本部 国会議員への要請 9月姥捨山で大集会

7月1日の県本部執行委員会では①集団的不服審査請求に取り組み、②当面臨時国会までに神奈川選出の国会議員の自宅訪問要請行動やFAX要請を行う。③知事要請、県の老人クラブ連合会との懇談。④自治体要請行動。⑤地域での学習、署名、宣伝行動に取り組み。など廃止に向けた取り組みを進めよう。

県本部女性の会



茅ヶ崎寒川支部も踊りの練習

川崎支部協会は現在男性20人が協力すると報告されました。各支部の出演申し込みは28支部と最高の数になりました。構成劇、寸劇、朗読劇、合唱、踊り、太極拳、太鼓と内容も多彩。今回は支部合同の出演が川崎、横

さわやか女性のつどい

各支部で着々準備 チケットの配布も好調

開催日まであと4回となった実行委員会が6月20日、平沼レストハウスで開かれ、細かい準備が進んできました。川崎支部協では男性も交えて開催の実行委員会が持たれ、お楽しみのお弁当は引き受けた「天龍」が格安で、女性に好まれる献立を用意。試食でおいしいと好評でした。

参加券の取り扱いも各支部とも好調の滑り出しでサークルの多い支部では、各サークルに参加券を割り当て、残を出さない取り組みをしています。力強い報告が寄せられています。

次回の実行委員会は7月31日13時30分から、幹事会、実行委員会、川崎支部協合同で開催します。



年金学校・NHK渡辺氏から報告を聞く

講義3/杉浦全厚生副委員長は、厚生労働省の無責任な運営と「社会保険庁解体法」の本質を浮き彫りにしました。

(田島茂)

かながわ年金学校 財源や職場の実態を知る

かながわ年金学校が6月21日、建設プラザで神奈川労連、年金者組合など、9団体が共催して開校し、130人(年金者組合65人)が参加しました。

この学校のテーマは①憲法25条と社会保障制度の充実。②最低保障年金の実現と財源。③社会保

年金収入は同じ 保険料は7倍

高津支部の米田茂樹さん

私と妻の年金収入と、同じ収入額のAさんの保険料は7倍も違う。こんな目茶苦茶な制度は許せない。高津支部役員米田茂樹さんの怒りが、しんぶん赤旗で大きく報道され、強い反響を呼んでいます。

神奈川年金者文芸

(川柳) 旭支部 毛利やすひこ
サミットに貧乏国はお呼びでない
クビキリの恐怖跳ねのけ声あげる
横須賀支部 山田 良夫
動くほど働き損の油高
切れ味がさっぱりしない不支持者
旭支部 本間鈍根花
梅雨の中紫陽花眺め癒される
天の川流れずに光れ平和星

(俳句) 横浜北支部 吉田 一夫
夏帽子無口一途に色褪せし
列島に風どんづまり福田カビ
川崎麻生支部 阿部 和子
虹色のパソル廻し孫の笑み
初夏の光しっかり根を張指者成る
平塚支部 寺田 公明
螢火や追う子の声の遠くなり
平塚支部 露木 茂子
たっぷりと雨を抱きて濃紫陽花
平塚支部 高橋 福松
大空を一刀両断夏燕

第22回日本高齢者大会 in新潟に4000人 9月8日~9日に開催 学習と楽しさいっぱい

全国から高齢者が集まって開く「第22回日本高齢者大会in新潟」が9月8・9の両日、新潟市の朱鷺メッセで開催。延べ4000人以上の規模を目標にしています。

神奈川県本部
バス2台で参加
1人25,000円

神奈川県本部は実行委員会を設けて、大型バス2台を独自にチャーターし、1000人規模の参加を目指します。

参加費用は県高齢期運動連絡会が、新幹線利用で1人4万3千円を提案していますが、県本部はバス利用などで経費を切り詰め、1人2万5千円とします。

米田さんの年金は26万円、妻の年金は42万円です。合計68万円。米田さんの年金収入が高く、世帯の総所得額が軽減を行う基準額を上回って被保険者全員の保険料が軽減されません。そのため年額の保険料は夫婦で15万円、妻の年金は42万円、合計57万円、妻が150万円、合計72万円、米田さんと合計は124万円です。夫の年金収入が低いために保険料が7割軽減される対象になりませんでした。年額保険料は2万3910円で、

9430円になります。一方、Aさんは年金が152万円、妻が150万円、合計302万円。米田さんの年金収入はAさんの約7分の1です。私たちの年代では夫共働きはほとんどいません。夫の年金収入が多いからと負担料が極端に高い制度は廃止しないと、米田さんは強く訴えています。

課題を整理する。②激動する社会情勢をきちんと把握する。③うるおいある楽しい生活を創造するための知恵を寄せあう。④日本の高齢者を輝かせる社会にしていけるための展望を皆で築き上げる。⑤社会に向けて高齢期

運動からのメッセージを発信する。の5項目です。

大会では、後期高齢者医療制度廃止をめざして、最低保障年金制度と財源問題。など26の分科会が開かれます。